

第1回検討会の議事の要旨

〈平成16年12月1日 員弁庁舎会議室〉

～市内各種バスの現状、コンセプト、新バス路線例、アンケート案について事務局説明～

【座長】

事務局からの説明を踏まえて、調査の方針と調査を行う上での注意点を議論頂きたい。

【委員】

今回の創発調査の目的として、鉄軌道とバスとの連携による地域づくりという点を前面に押し出していきたい。また今回の調査が鉄道の活性化、中心市街地の活性化にどのように寄与できるかを掘り下げて頂きたい。

【委員】

鉄軌道と居住地が地理的に離れているが鉄道駅からの公共交通が少ない。鉄道は夕方以降の利用客もあるので、バスの夜間運行が望まれる。

【委員】

アンケートの対象者を無作為抽出1000人としているが、1000人の中でバスを利用している人がそれほどいるとは思えない。

阿下喜からバスが出ているのでバス交通の中心と考えるが、阿下喜は中心市街地として位置づけられているのか。いつもバスを利用している人を対象にした調査が必要。

大安から阿下喜に向かっているバスの利用者が多いと感じていたが無料だと知った。

【委員】

名古屋など都市圏から嫁いできたお母さん方は、都市圏では公共交通での移動が楽であるゆえ、運転免許を持っておられない方が多い。こちらへ嫁がれて子育てと同時に免許を取ることも難しく苦勞されている。福祉バスの存在は知っているが、ご老人の利用が多くて子ども連れのお母さん方は利用しづらいと聞く。

また、子供が夕方利用できる交通手段がない。事故や犯罪の面から、お母さん方の中にはスクールバスを要望されている方も多い。しかし、一方ではバスを否定されるお母さん方も存在している。スクールバスを要望しているお母さん方は、有料であっても利用するとの話を聞いている。老人・母・子供にとって気軽に使いやすいバス路線がよいと思う。

【委員】

老人の中にはまだまだ自分で車を運転する人が多い。しかし、更に年をとれば鉄道・バスなどの公共交通を必要とするだろう。

員弁川を渡る公共交通がないとの説明があったが、大泉駅と三里駅間を結ぶバス路線が計画中であるとの話を聞いているが、この路線ができれば利用される人もあると思う。

【委員】

合併したいいなべ市はまだ政策・施策の面で旧4町間に温度差を残しており、バス路線の現状もその温度差の一つと感じている。いなべ市の道路事情から言えば、幹線道路の整備

はできているが支線道路の整備はまだまだ出来ていない。実際、交通に関しては支線道路沿線に居住する人が不便を感じており、まずは道路整備の必要がある。また、人口増加の施策により利用者を増やし、採算の合うバス路線をつくる必要がある。

バス路線を考える際、採算性を考慮し、採算は取れないにしても財政状況との関係で路線数の調整が必要。また、狭い道路への乗入れに関して言えば、安全性について十分考慮が必要だ。

【事務局】

バス利用者に絞ったアンケート実施についてのご意見があった。今回はバスを利用しない方々もバスの利用者になって頂きたいとの考えから無作為抽出という形を選んでいる。

これまでのご意見で、利用対象者が子供と老人両者となるようなバス、あるいは狭い道路に乗入れるバスなどの点で今後検討の参考としたい。また、いなべ市全体の福祉的なバス利用について、社会福祉協議会などからのご意見も頂きたい。

【委員】

藤原町のバスの現状は、朝晩の子供の通学で利用があるが、昼間の利用客はほぼゼロだ。また休日となると終日利用客はほとんどない状況である。

以前旧藤原町でもコミュニティバス導入の検討をしたが、住民の要求が複雑でかつ財政的な問題やあるいは安全性の面からうまくいかなかった。

バスや電車の車中で、老人と子供がコミュニケーションする姿は福祉・教育の理想だと思う。

大都市と違い、交通不便地域では交通の時間に合わせた行動を余儀なくされる。市民においてもなるべく公共交通を利用するという啓発活動が必要だ。

【委員】

旧大安町福祉バスのコンセプトは交通弱者の生活の最低保障であり、決して利便性を追及したものではない。利便性を求めないゆえ、細かな狭い道を縫う様に運行している。生活において最低限の機会、例えば週一回の買い物や、2～3日に一回の病院行きなどを福祉バスは提供している。利便性だけのバス路線ではなく、交通弱者に対する最低限の保障という観点も含めて、十分コンセプトを煮詰めてから検討を始めて頂きたい。

大安町の福祉バスはそのコンセプトに基づくため不便な面もあり、大安町の方全てが利用されてはいないが利用者にとってはライフラインであり、このままの存続に対する強い要望もある。

【座長】

公共交通を残していくためには、公共交通を利用した行動パターンに変えないと難しい。このまま公共交通に対する意識が薄くなると利用者が減り、まるで空気を運んでいるような状況となり、やがて廃線という結果を導いてしまう。財政的に考えても市の負担に限界はあるだろう。

今回の調査目的として4町合併による新しいコミュニティの創造もあり、同時に少子高齢化社会を迎えるにあたって、いなべ市における従来の車依存社会から公共交通のあり方

を今後議論してゆく必要がある。

【事務局】

総合計画策定中であり、土地利用計画をはじめ、道路整備計画についても総合計画の中で、財源の問題とともに一体的に検討中である。

また、バス路線の財政・採算についてのご意見もあったが、市としても十分考えていかなければならないところではあるが、今回の検討会では、市のバス路線としてのあり方を中心にご意見頂ければありがたいと思っている。

【座長】

今回の調査で行うバス路線とは、まず利用者としては、高齢者や子ども、そして車を運転されない方々を対象として、通学や通院、買い物に対する利用を考えるのであり、一般の通勤交通としての視点からは調査しないということでもいいのか。

【事務局】

旧 4 町で過去それぞれの経緯から作られた全てのバス路線に対して検討していきたい。今回の調査では市の一体感が感じられるバス路線について皆さまからご意見頂きたい。

【委員】

いなべ市には他にない鉄道交通があり、公共交通の考え方はこの鉄道を柱としてまとめて頂きたい。いなべ市は地理的に見て員弁町・大安町は2つの鉄道を集落が囲んでいる地域という考え方、藤原町・北勢町でのバス交通は、地域内の移動と鉄道へのアプローチという考え方に分かれる。従ってまず、公共交通に対する考え方も2つに分けるべきだと思う。無作為抽出して同一な質問に対する意見を聞くのではなく、地域ごとにどのような希望があるのかを調べていく必要がある。

今回の調査は、鉄軌道を中心とした公共交通による市街地活性化がテーマである点を踏まえた検討をするべきだと思う。

【座長】

今回の調査では、アンケートを実施してバスに対して広くご意見を集めることとしているが、アンケートの方法・内容について事務局から再度説明後、委員の皆さまからのご意見を頂きたい。

～アンケート内容について事務局説明～

【委員】

アンケートの中身を精査していただきたい。本日決定して配布するのではなく、時間をいただいて検討、提案させていただきたい。

【委員】

無作為に配布されるとのことであるが、年齢制限をしないと回答が偏ってしまうのではないかと。また人口4万5千のいなべ市で、1000人に配布し、回収率50%として500人の回答で即行動をおこしていいのかという問題がある。広く薄くではなく、広く厚く意見を採るべきだと思う。

【委員】

回収率 50%はあり得ない。30%程度が普通だ。経費節減なのであれば 3 枚を 1 世帯に送付するなどの方法もある。いずれにしてもサンプル数はあまりにも少ない。

【座長】

中学生以上の無作為抽出が可能なのか。また世帯に 1 通の郵送だとアンケートに記入する人が車を運転する元気な人ばかりになって意味がなくなってしまうのではないか。回収率 30%は現実的には 20%から 25%程度ではないだろうか。

【委員】

今回の調査は、いなべ市全体のことをテーマにしているのであり、自治会で集約していただくとう回収率も上がる。

【事務局】

そのあたりは事務局で検討させていただく。

【委員】

今回の調査では、現在の自主運行・福祉・スクールバス全てを一旦白紙として再配置するということか。それとも現行バス路線は残して、今回の調査で決定する新しいバス路線を加えるということか。

【事務局】

全体のコンセプトは白紙から作り直すので、結果として見直しされる可能性はある。

【委員】

現在ある生活路線のバスはまだ解るが、幼稚園バスやスクールバスを廃止するとなると、現在の利用者に対してどう説明するつもりなのか。

【事務局】

全体的に運用面などから見直すのであって、すぐに廃止するというわけではない。市全体のバス路線の運用や利用形態について本検討会でご意見頂きたい。

【委員】

市全体であるならば、各団体からの要望事項を採り入れる必要があり、この検討会だけで決定していくのに問題はないのか。

【座長】

今のご意見は来年度以降の調査にて採り入れられる内容ではないかと思う。本検討会ではバス路線のあり方を示すことが重要だと思う。

【委員】

今から 4 ヶ月でスクールバスなどを含めた議論では範囲が広すぎて結果を出すのは難しいのではないか。対象をもう少し絞ってはどうか。例えば鉄軌道を中心として阿下喜駅からどういうバスを走らせるか、また楚原駅から、大安駅から、という切り口でまとめていくのがよいのではないか。鉄軌道とバス路線という考えを中心とすれば、スクールバスなどは本検討会で議論するかどうかとも時間的な制約から考え直す必要があるだろう。

【座長】

これまでの意見から、今回検討する対象を公共交通全体としてスクールバスなどを含める、あるいは鉄軌道と連結するバス路線に絞るべきだとの意見があるが、事務局としてどのように考えるのか。

【事務局】

事務局としてはバス路線の全体的な議論をしたい。しかし、今回のご意見を踏まえて再度検討する。

【委員】

期間がないので調査を絞るのではなく、いなべ市全体にとって理想的な公共交通網はどうあるべきかを、アンケート結果を踏まえ、期限を決めないで議論することが大切だと思う。市民にとって歩ける程度はどれくらいか、自転車の範囲はどれくらいかをアンケートによって調査し、市民も我々も努力した結果として最低必要な公共交通を考えてゆく。今回の調査が市民に対し、公共交通について考えることを提供する場になることを期待している。調査の期間にとらわれず、アンケートによってより多くの情報を収集・分析して頂きたい。

【委員】

アンケート最後の質問で、利用しない理由を聞いているが、更にどのようにしたら利用するのかを質問しないと意味がないのではないだろうか。また利用しない理由に運行本数についての選択肢を増やす必要がある。

【委員】

郵送によるアンケートとは別に、委員はサークルや団体の代表として参加しているので、第2回の会議までにサークル等の意見集約をして持ち寄ってはどうか。

【座長】

幅広い意見の集約という点からして、各団体の意見集約は非常に有効であると感じるので事務局として可能であれば考えていただきたい。

【委員】

あるバス事業者のバスに、排気ガスが多量に発生するバスがあるように思うが、こういった整備についても考えてほしい。

【委員】

阿下喜駅や大安駅からの学校への直行便の検討が必要ではないだろうか。

【委員】

藤原町では採算が取れずに廃線が検討されたが、結局住民の強い要望で存続となり、自主運行バスを走らせている。住民の方は赤字であっても路線の存続を希望されるが、市全体の財政状況から考えると、極端な話タクシーチケットでもいいではないかという話になる。大切なことは財源であり、如何に効率的な公共交通網を考えるか真剣に取組まなければならない。アンケートも徹底的に行い、市の理想的なバス体系で住民に利用促進するという考え方で検討して欲しい。住民のニーズを集めてもまとまらない。

【委員】

調査目的である新市におけるコミュニティ創造のためのバス路線を主となる目的として路線を考え、その次に福祉や教育といった要素を取り入れないと方向性が決まらないのではないか。目的をはずさないで検討していただいたい。

【委員】

今回の調査に対して、バス停だけではなく乗降システム、商業地へのバス路線の乗り入れ、鉄道と乗換の利便性の向上、市庁舎や施設の将来を含めた検討を今後して頂きたい。

【委員】

バス路線見直しによって、現在あるバス路線や沿線等に悪影響が出ないような配慮も必要である。